

特集2: 持続可能な調達を目指した

ニチレイグループが、食の安全・信頼と並んで重視しているのが環境に配慮した持続可能な調達です。原材料の調達先が世界中に幅広く分布している今、各地域の社会的な背景を踏まえた事業活動が大切と考え、パートナー企業などと連携した調達活動を進めています。

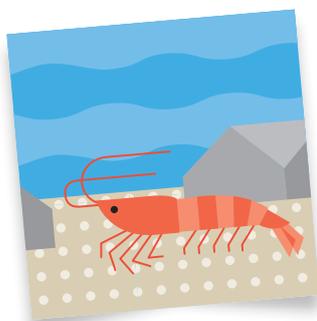
10周年を迎えた「^{いのち}生命の森プロジェクト」! [ニチレイフレッシュ]

マングローブ植樹への寄付を通じて持続可能な調達に貢献

ニチレイフレッシュが養殖えびの調達先であるPT. Mustika Minanusa Aurora (MMA)社およびインドネシア・北カリマンタン州タラカン市と協同で開始した「生命の森プロジェクト」が10周年を迎えました。ニチレイフレッシュは1995年に「集約養殖」に比べ環境への負荷が少ない「粗放養殖」を手がけるMMA社からブラックタイガーえびの調達・販売を本格的に始めました。養殖池はマングローブを伐採してつくられますが、その生態系の回復に貢献したいと考え、2006年にMMA社の「マングローブ基金」に収益の一部を寄付する「生命の森プロジェクト」を開始。このプロジェクトを通じてマングローブの植樹活動を行い、持続可能な調達だけでなく、タラカン市における着実な自然環境の保護・生態系の保全に貢献しています。



Q 自然の地形を活かした「粗放養殖」のメリットは?



A えびの養殖で一般的なのは、約0.3~1ヘクタールの人工の養殖池に多くの稚えびを投入し、飼料を与える「集約養殖」と呼ばれる方法。より多くのえびを短期間で収穫できますが、養殖池の維持などで環境に大きな負荷がかかります。一方、10ヘクタール以上の養殖池で稚えびの投入密度を抑えてえびを育てる伝統的「粗放養殖」は飼料を与えず自然プランクトンなどを食べて育つため、土壌への負荷や病害リスクが少ない上に、えびが大きく育つというメリットがあります。えびをほぼ自然に近い環境で育てるこの伝統的えび養殖を、循環型の永続的な活動として取り組んでいきたいと考えています。



大きく育ったえび



水揚げされたえび

Q マングローブを植樹したことによる効果は?

A MMA社の「マングローブ基金」への寄付を通じて実現した植樹活動の結果、マングローブ林が回復することで、鳥やかニ、小魚が増えました。また、かつてこの地からいなくなったテングザルも、外部から連れてきたものが自然繁殖して定着するなど、生態系の回復にもつながっています。



2011年度植樹



2012年度植樹



2013年度植樹



2014年度植樹
(2015年3月のもの)

これまでに東京ドーム
約65個分の
面積に植樹を実施!

活動開始から10年。
トータルの植樹エリアは
約302ヘクタールに達しています。
これは東京ドームの約65個分に
相当する面積です。

(2014年11月時点)

ニチレイグループの取り組み

地域との連携による環境・社会への貢献

「マングローブ基金」を通じた植樹活動は、地道ながら着実にタラカン市への貢献に結びついています。マングローブ林の一部は地元タラカン市の公園として整備され、地域の人たちの憩いの場となっています。また、ボルネオ大学の研究対象として活用され、学生と共同で「マングローブ植樹ツアー」が定期的実施されるようになりました。この植樹の取り組みが評価され、2016年3月にタラカン市からMMA社の「マングローブ基金」および「生命の森プロジェクト」へ感謝状が贈られました。マングローブが生い茂っているエリアには、植樹活動によって実現したことを記したプレートも設置されています。

食と地球の未来を見据えたこの「生命の森プロジェクト」の発展に向けて、今後も継続して取り組んでいきます。

タラカン市長の声



タラカン市長
M.Si, SOFIAN
RAGA氏

ニチレイフレッシュおよびMMA社にはタラカン市内および周辺のマングローブ植樹活動への寄付をいただき感謝申し上げます。

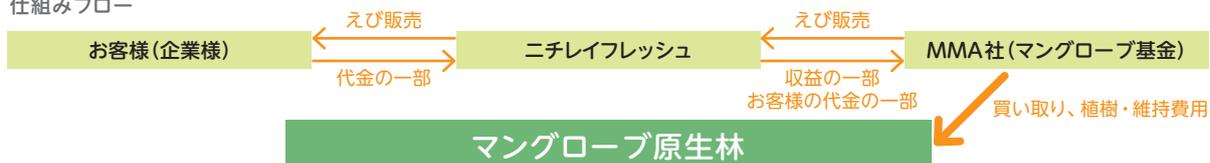
10年間におよぶその活動は、地域の環境と生態系の再生に大きく貢献しました。

タラカン市は、City of Green Tarakanという目標のもと、2014～2019年まで環境再生事業を最優先課題として取り組んでいますので、今後もぜひ植樹活動を継続していただけることを希求いたします。私たちも貴社の活動に協力していきたいと考えています。

マングローブ植林の仕組み

生産されるえびの販売収益の一部が、MMA社の「マングローブ基金」を通じ、環境保全活動費用に充てられています。

仕組みフロー



お客様に、粗放養殖えびを購入いただければ、それだけ原生林の保全活動が進む仕組みです。

このサイクルを回し続けることが大切と考えています。

パートナー企業との連携によるCSR調達! [ニチレイフーズ]

CSR活動の考えにもとづいた調達を推進

ニチレイフーズは、ニチレイグループ「6つの責任」の考えにもとづき、事業活動を行うとともに、事業を通じたCSR活動を推進していきます。取引先にあたっては、下記5項目を基本方針として掲げています。

調達段階での社会的責任を果たすため、取引先であるパートナー企業のご支援・ご協力のもと、以下の6要件について遵守を求めています。また、工場品質監査時に重点項目のチェックを実施するとともに、チェックシートによる工場のセルフチェックも行っています。

ニチレイフーズ「5つの基本方針」

1. 私たちは、複数のお取引先様に対して公平に窓口を開放します。
2. 私たちは、国内外の諸法規を遵守し、企業倫理に基づいた公正な取引をおこないます。
3. 私たちは、調達活動を通じて得た情報は厳格に管理します。
4. 私たちは、環境への影響に十分配慮します。
5. 私たちは、市場ニーズに応えるためQCD(品質、コスト、供給)を追求します。

ニチレイフーズ、遵守を求める「6つの要件」

- ニチレイフーズに供給する製品の品質、価格、納期が適正水準にある。
- 基本的人権を尊重し、従業員の労働安全確保に努める。
- 環境に配慮した製品・サービスの提供に努める。
- 公正な事業活動を行い、法令を遵守する。
- 情報は適切に管理するとともに、事業活動に関わる情報の適時・適切な開示に努める。
- 企業市民として、社会貢献活動に取り組む姿勢がある。